

## ペルーの柑橘類事情(マンダリン/タンジェリン)

米国農務省GAINレポート 2023年12月20日

これは米国農務省海外農業局のリマ事務所(ペルー)が作成した「柑橘類年次報告書」(一部省略)を訳したものであり、米国の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

## 要旨

当事務所は、ペルーの2023/24販売年度(以下「年度」)のマンダリン/タンジェリン生産量を前年度比1%減の54万5千トンと予測する。平均より高い気温やその他の悪天候による収量の低下は、生産量と輸出量に悪影響を及ぼすと見られる。2023/24年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量は、前年度比2%減の31万8千トンと予測される。ペルーのマンダリン/タンジェリンの輸出量は、20万トンの横ばいと予測される。米国は引き続きペルーの最大の輸出先国であると見られる。

表1 ペルーのマンダリン/タンジェリンの生産流通統計

ペルー マンダリン/タンジェリン(生鮮)	推計値	推計値	予測値
年度区分	2021	2022	2023
分割年度表示(販売年度)	2021/22	2022/23	2023/24
<b>ペルーの販売年度の始まり</b>	<b>2022年3月</b>	<b>2023年3月</b>	<b>2024年3月</b>
栽培面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
収穫面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
結果樹本数(千本)	9,200	9,200	9,200
未結果樹本州(千本)	0	0	0
合計果樹本数(千本)	9,200	9,200	9,200
生産量(千トン)	570	550	545
輸入量(千トン)	0	0	0
総供給量(千トン)	570	550	545
生鮮品輸出量(千トン)	220	200	200
生鮮国内消費量(千トン)	320	320	318
加工仕向量(千トン)	30	30	27
総仕向量(千トン)	570	550	545

注: ペルーの年度と米国の年度の間には1年のずれがある。たとえば、ペルーの2024/25年度は米国の2023/24年度に相当する。データの継続性を確保するため、本報告書ではペルーの2024/25年度を2023/24年度と表記する。

## 生産

ペルーの2023/24年度(2024年3月~2025年2月)のマンダリン生産量は、前年度比1%減の54万5千トンと予測される。エルニーニョ現象に伴う異常な気象は、特に早生品種において、次年度の生産性に影響を与えると考えられる。ペルー政府の監視システムによると、エルニーニョの強度は「強」(49%)ないしは「中程度」(47%)と予想されており、温暖な状態が続くと見られる。エルニーニョ現象の発生は、大雨の影響及び洪水によって起こり得る農地の損失を通じてマンダリン/タンジェリンの生産に影響を与える可能性がある。

悪天候、収穫前の降雨量の増加及び平均以上の気温により、今年度は出荷が遅れた。ペルーは予想外の暖冬を経験し、プリモソール、クレメンタイン、ウンシュウミカン等の早生品種の出荷に影響を受けた。マンダリンは、輸出品質として必要な色の基準を達成するため、生産の最終段階で涼しい天候を必要とする。晩生品種(タンジェロ、タンゴ、オッリ、ダブルマーコット)への期待は高かったが、悪天候が続き、晩生品種も平均を下回った。ペルーの収穫期は3月から10月まで続くが、2022/23年度は開始が遅れたため、出荷が遅くなり出荷量も少なくなった。2022/23年度の輸出量の10%の減少は、気象条件が主な要因であった。

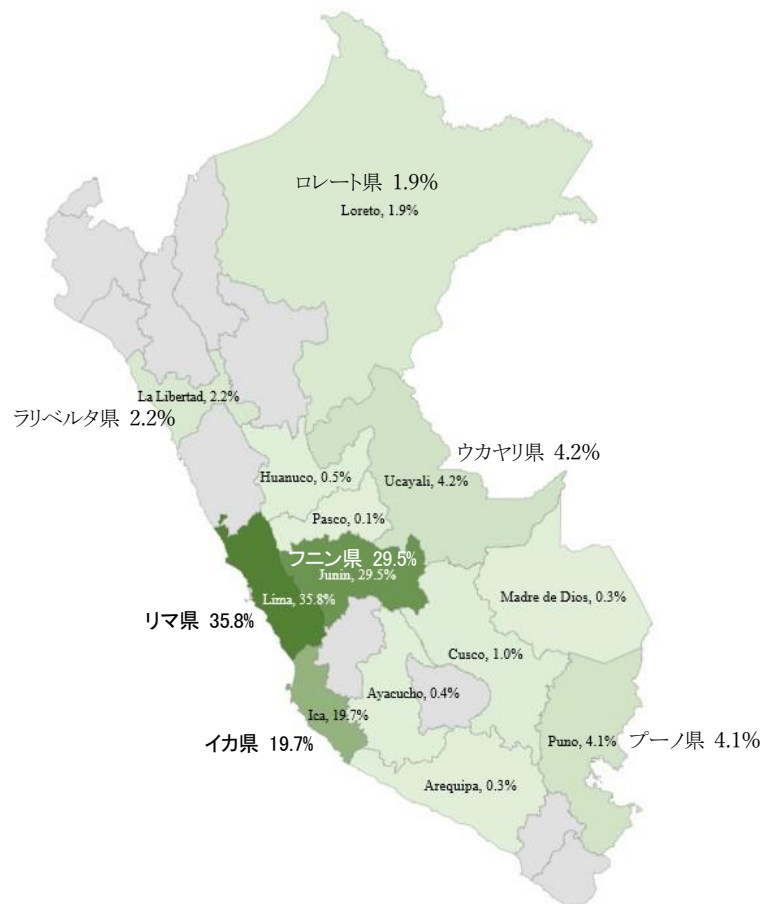
マンダリン/タンジェリンの園地は、2022暦年からの肥料不足と干ばつ及び2023暦年の大雨と暖冬と、負のショックに立て続けに直面している。このことは2024年の開花に影響を与え、病虫害のリスクを高め、早生品種の収量に影響を与える可能性がある。

タンジェロは、ペルーのマンダリン/タンジェリンの総面積の20%を占めている。クレメンタイン、ダブルマーコット及びウンシュウミカンがペルーで最も人気のある品目である。

マンダリンは、地代とプランテーションの費用を除いて、年間5千～6千米ドルの投資を必要とする。これは、小規模生産者にとって大きな支出である。現在、古い品種から新しい輸出志向の品種への転換率は年1%である。

マンダリン/タンジェリンの栽培は13の産地で確立されている(図1参照)。沿岸地域はマンダリン/タンジェリンの総生産量の60%を占め、輸出に力を入れている。ペルーは亜熱帯気候で、水の入手も容易である。生産は条件が適しているリマ県(チャンカイ市及びワラル地域)、フニン県及びイカ県に集中している。公式データによると、ウカヤリ、プーノ、ロレート、ラリベルタの各県でも国内市場向けのマンダリン/タンジェリンの生産が行われている。タンジェリンの栽培面積は4,500ヘクタールと推定され、マンダリンとその他の交雑種が1万8,500ヘクタールを占めている。

図1 ペルーのマンダリン/タンジェリン産地



出典: PROCITRUS のデータに基づき当事務所が作成

公式データによると、ペルーには平均3ヘクタールの小規模柑橘類生産者が3千以上いる。事実上、それらの生産者の生産物はすべて国内市場向けである。収量は1ヘクタール当たり12～20トンの範囲である。

ペルーのアマゾン盆地と高地での生産は国内市場向けであり、リマ県とイカ県の川の流域での生産は輸出志向である。リマ県とイカ県での生産は、ともに砂漠状態(低い病虫害リスク、日較差の大きい気温)と、主要港であるカヤオ港(リマ県)またはピスコ港(イカ県)へのアクセスの良さの両方の恩恵を受けている。

ペルーの輸出向けマンダリン/タンジェリン生産は、大部分が50ヘクタール以上の産業規模の農場で行われている。最先端の点滴灌漑システムを使用しており、生産量を最大化するため、正確な量の水と栄養分を供給している。これらの農場の収量は平均70~90トンで、多収で品質の高い品種が選択されている。

ペルーで栽培される品種は次のとおりである。

ウンシュウミカン (*Citrus unshiu*): クラウゼリーナ、興津、尾張、プリモソール

クレメンタイン (*Citrus reticulata*): クレメンタイン、クレメノール

交雑種: フォルチューナ、カラ、ピクシー、ノヴァ

*Citrus reticulata* と *Citrus paradise* の交雑種のタンジェリン: マーコット、オルタニク、タンゴ

その他: ダンシー及びナドルコット。マルバセオトリオデオロもペルーで長年人気がある。

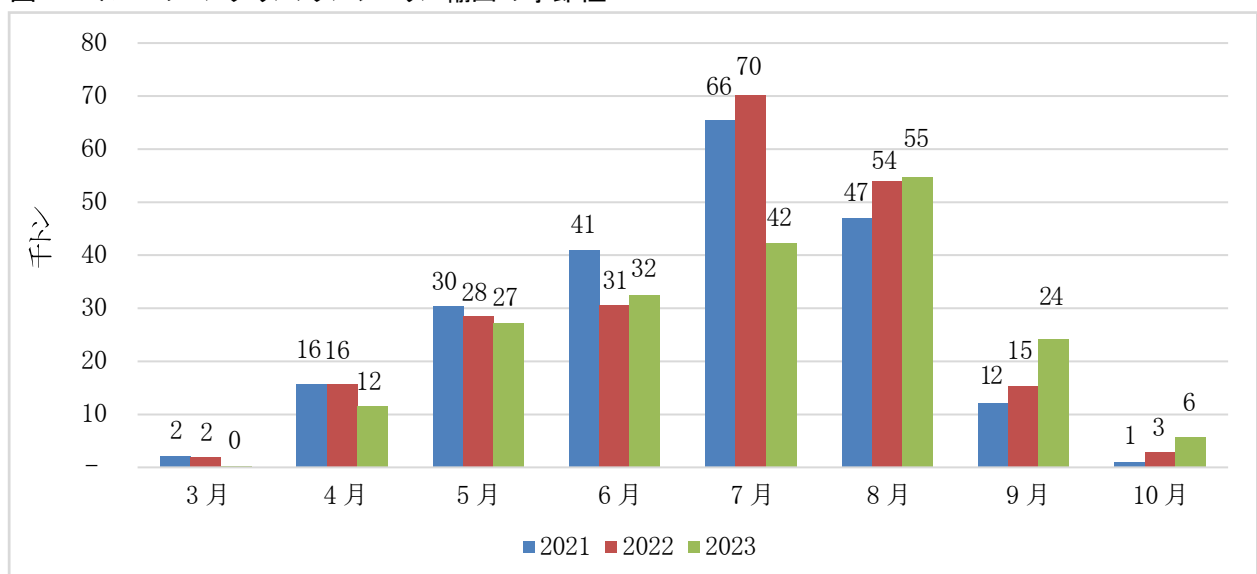
輸出市場は、マーコット、タンゴ、プリモソール、クレメンタイン、オツリなどの皮を剥くのが容易な種なし品種が大部分を占めている。ウンシュウミカン、プリモソール、クレメンタインは早生の品種と見なされ、マーコット、タンゴ、オツリはシーズンの後半に収穫される。現在、ほとんどのウンシュウミカン是国内市場向けであり、プリモソールとクレメンタインは輸出されている。

図2 リマ県沿岸部(スーパーバレー地区)のマンダリン果樹園



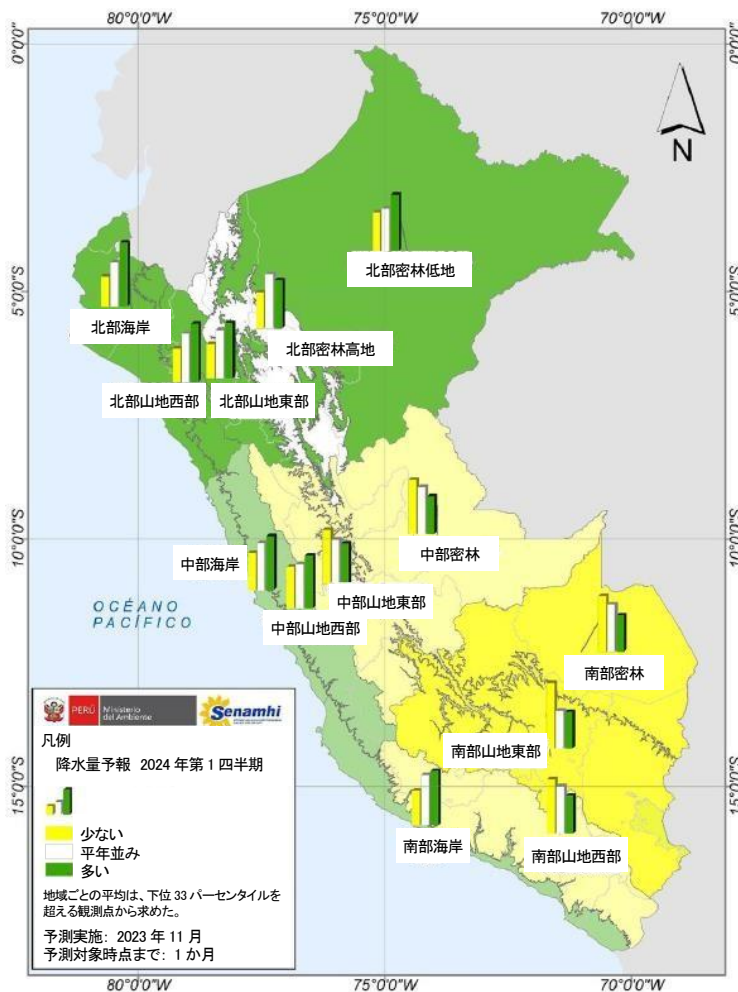
出典: 当事務所

図3 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出の季節性



出典: ペルー税関(SUNAT)

図4 2023年12月から2024年2月まで\*の降水量予測



2020年、2021年、2022年と3年連続でラニーニャ現象により気温が低かった後、2023年は天候パターンが変わった。2023年3月にペルー沖で低気圧(サイクロン「ヤク」)が稀に見る長期間停滞し、ペルー北部と中部に豪雨が降り、多くの沿岸地域で洪水や土砂崩れが発生した。この出来事と2023年4月以降の平均以上の海水温が相まって、ペルーでは冬がなかった。この異常な天候は、早生品種の遅れだけでなく、シーズン全体の生産性にも影響を与えた。

ペルー国立気象水文局(SENAMHI)は、12月から2024年2月まで\*の平均降水量を予測した(図4参照)。沿岸部全域と北部の山地及び密林地帯(緑色)で平年並み以上の雨が予想される。白色は平均的な降水量の地域を、黄色は平均降水量を下回る地域を表している。予報によると、収穫時期が遅い地域では雨の影響は予想されていない。(※: 左図及びその出典文書中の記述と食い違いがあります。)

左図の出典: [SENAMHI](https://www.senamhi.gob.pe/)

## 消費

当事務所は、2023/24年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量を31万8千トンと予測する。ペルーではマンダリンは昼食の弁当や間食として人気がある。ペルーの一人当たりのマンダリン/タンジェリン消費量は11kgと推定される。マンダリンジュース、ジャム、加工食品(クッキー、ケーキ、朝食用シリアル、シリアルバー)及びアルコール飲料は、消費を促進する画期的な手法として、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで人気がある。4オンス(約113グラム)容器入りの果汁漬けカットマンダリンの輸出量は、2017年の2千トンから2022年には1万3,670トンと年平均46%増加した。

ウンシュウミカンとタンジェリンは、国内市場では一年中供給されている。他のすべての品種には季節性がある。平均して、2023年の国内市場の卸売価格(表2参照)は前年比で18%高くなっている。リオデオロ品種は国内市場で最も価格が高く、ウンシュウミカンとタンゴがそれに続く。

表2 マンダリン/タンジェリンの平均卸売価格 2023年1月~11月(米ドル/1kg)

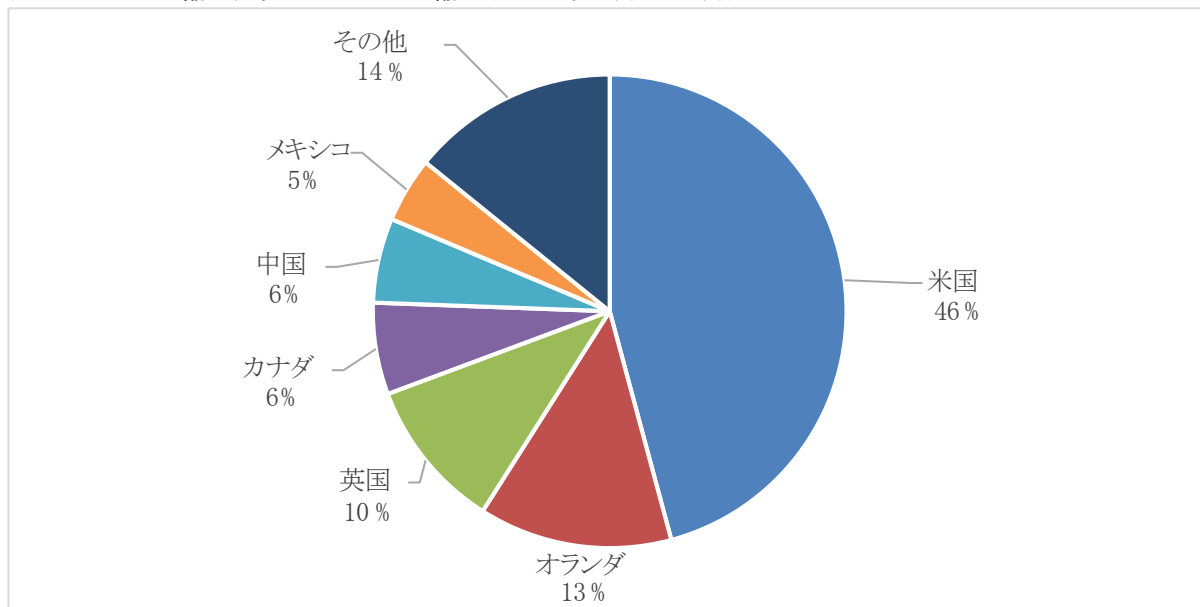
クレメンタイン	コリ	マルバセア	マーコット	ノヴァ	ピクシー	プリモソール	リオデオロ	ウンシュウミカン	タンジェリン	タンゴ
0.33	0.44	0.52	0.51	0.47	0.46	0.45	0.64	0.56	0.27	0.56

出典: ペルー農業省価格システム

## 輸出

当事務所は、ペルーの2023/24年度のマンダリン/タンジェリンの輸出量を20万トンの横ばいと予想する。2023年1月～11月のペルーの生鮮マンダリン/タンジェリン輸出先は、主に米国(46%)、オランダ(13%)、英国(10%)であった。

図6 ペルーの輸出先国別マンダリン輸出(2023年1月～11月)

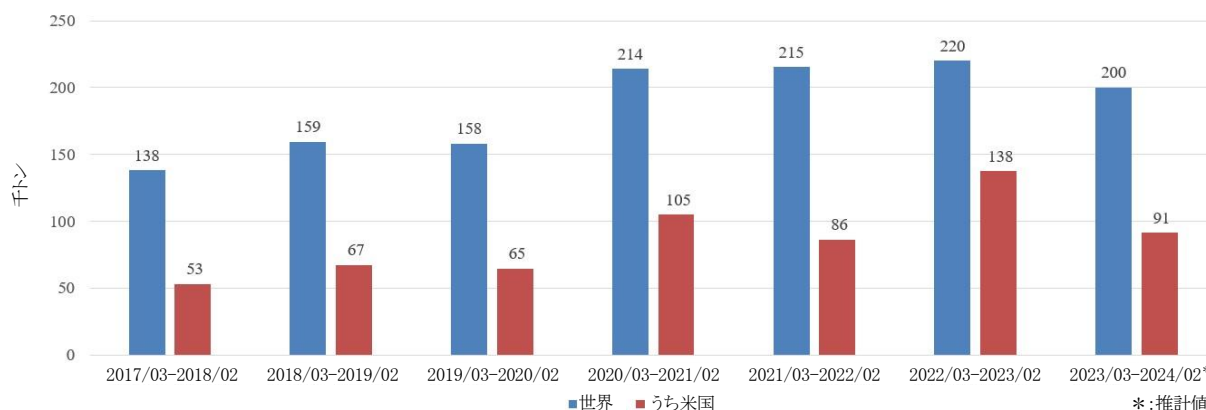


出典: ペルー税関(SUNAT)

2022/23年度の生鮮輸出量は前年度比10%減で、22万トンから20万トンに減少した。ペルーは2015/16年度に11万2千トンを輸出し、その後一貫した成長を見せ、輸出量はほぼ倍増した。

米国向けの輸出量は、ここ数年一貫して増加している。しかし、2022/23年度には、13万8千トンから9万1千トンへ34%減少した。また、米国の市場シェアは、2021/22年度の63%から2022/23年度には46%に減少した。

図7 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量の推移(千トン)

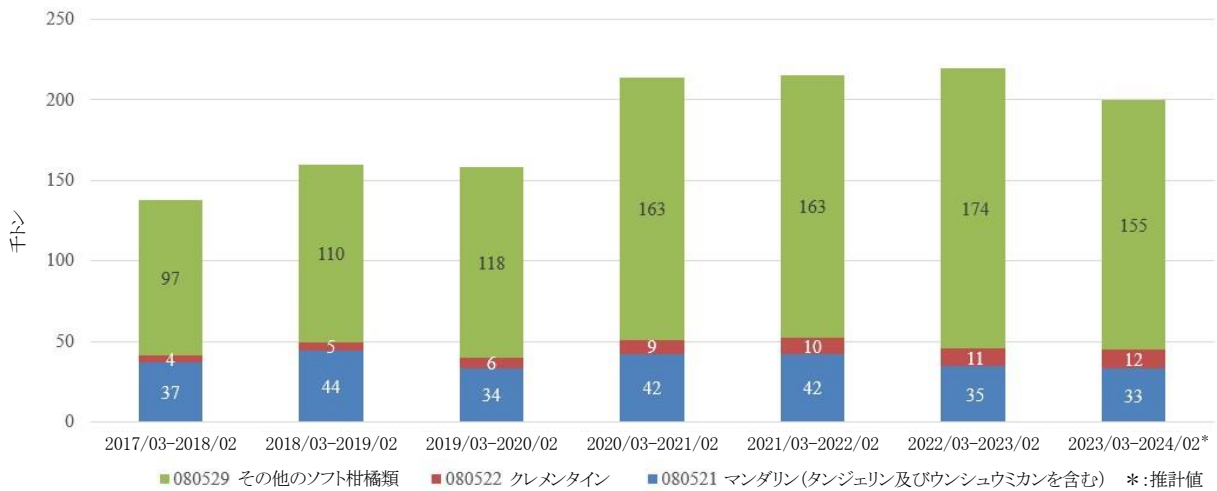


出典: Trade Data Monitor LLC

ペルーの2023/24年度の世界へのマンダリン/タンジェリン総輸出量は、果実の品質が低く、生産量が少ないため、20万トンにとどまると予測される。通常、交雑種が輸出総量の78%を占める。



図8 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量 HSコード別世界計(千トン)



2022/23年度のペルー産「その他のソフト柑橘類」の1トン当たり平均輸入価格は、米国が1,189ドル、英国が1,123ドル、オランダが1,154ドルで、2021/22年度よりも良い価格であった。世界平均の1トン当たり輸出価格は2021/22年度は1,059ドル、2019/20年度は1,063ドルであったが、2022/23年度は1,134ドルに達した。

クレメンタインの輸出量は2016/17年度から3倍に増加し、主に米国市場向けである。当事務所は、ペルー産クレメンタインの輸出量は今後数年間増加を続けると予想する。2023/24年度の米国向けのマンダリン/タンジェリン輸出量は増加し、10万トンに達すると予想される。2022/23年度の米国向けのマンダリン/タンジェリン輸出量は、主に輸出用果実の入手が難しかったため、2021/22年度の13万8千トンから9万1千トンへと急激に減少した。

## 政策

ペルーのマンダリン/タンジェリンの輸出は、2009年2月1日に発効した米ペルー自由貿易協定(PTPA)の恩恵を受けている。この協定により、ペルー産マンダリン/タンジェリンは無税で米国に輸入される。ペルー農業衛生局(SENASA)は、輸出用生鮮果実の監視と管理において主導的な役割を果たしている。収穫期ごとに、SENASAは登録された果樹園と加工場のリストを更新する。現在の公式データによると、同庁は124のマンダリン/タンジェリン生産農場と26の梱包処理施設を登録している。

登録果樹園: [マンダリン生産農場 \(senasa.gob.pe\)](https://senasa.gob.pe)

登録梱包処理施設: [マンダリン梱包施設 \(senasa.gob.pe\)](https://senasa.gob.pe)

PROCITRUSはペルーの柑橘類貿易団体であり、柑橘類輸出産業全体の80%を代表している。同団体は1998年に設立され、研究、開発及び官民調整に向けた業界の取り組みを主導している。マンダリン/タンジェリンの規格は、柑橘類業界の品質要件と統一基準の適用を推進する2014年の規則(NTP011.023)によって規定されている。外観と色の基準は、すべての柑橘類に求められる。果汁の含有量は、マンダリンが33%、タンジェリンが45%である。最小の直径はマンダリンが45mm、タンジェリンが54mmである。成熟の要件(品種ごとの糖度、酸度)は添付(リンク)の資料に示されている。

添付資料: [NTP 011.023 2014.pdf](#)